

1. 科目名 (単位 数)	英語科指導法II (4 単位)	3. 科目番号	EDEN3342
2. 授業担当教員	茂木 隆資		
4. 授業形態	講義、演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「英語科指導法I」の単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	英語科指導法Iで学んだことを踏まえ、教育実習に必要な実践的な知識を身につけることを目標とする。授業の構成は以下になる。まず、学習者及び、言語活動のポイントに応じて、授業が展開できるよう、基本的な知識や指導技術を学び、次に、学んだことや自分で行った教材研究の成果を生かして、指導案を作成する。この指導案に基づいて、模擬授業を展開し、自己及び相互評価、ディスカッションを通して、授業の改善の可能性を探る。最後に、より良い授業を目指して、教授法と教授技術の学びを深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的を理解し、授業準備の手順に沿って実習校で準備できる素地を確立できる。 2. 教材研究 (教科用図書等) を深めることで模擬授業の指導案作成に必要な情報を入手し、指導案全体の構成を把握することができる。 3. 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を踏まえた形で、領域別の学習到達目標、指導計画、そして評価規準を設定し、実際に指導案を作成できる。 4. 模擬授業の体験を通じて、英語でのインタラクションを指導に生かすことができる。 5. ICTを含む視聴覚教材の活用と教室管理により、より効果的な授業展開ができるよう、それらの知識を深めることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレ ポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の指定した範囲を読んでもらう。 2. 文法の指導力向上のため、学期中に文法解説演習を数回課す。 3. 教育実習本番を想定した形で、冬期休暇中の課題として英語科の学習指導案を作成してもらおう。 4. 実施した模擬授業から得た知見を主に活かして50分授業の学習指導案を最後に作成してもらおう。 		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 加藤茂夫・杉山敏・荒木美恵子 共著『英語科教育実習ハンドブック 第4版』大修館書店。</p> <p>【参考書】 本多敏幸『若手英語教師のためのよい授業をつくる30章』教育出版。</p> <p>【参考資料】 文部科学省『小学校学習指導要領外国語活動・外国語編』開隆堂。 文部科学省『中学校学習指導要領外国語編』開隆堂。 文部科学省『高等学校学習指導要領外国語編』開隆堂。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的を理解し、授業準備の手順に沿って実習校で準備できる素地を確立できるようになったか。 2. 教材研究 (教科用図書等) を深めることで模擬授業の指導案作成に必要な情報を入手し、指導案全体の構成を把握することができるようになったか。 3. 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を踏まえた形で、領域別の学習到達目標、指導計画、そして評価規準を設定し、実際に指導案を作成できるようになったか。 4. 模擬授業の体験を通じて、英語でのインタラクションを指導に生かすことができるようになったか。 5. ICTを含む視聴覚教材の活用と教室管理により、より効果的な授業展開ができるよう、それらの知識を深めることができるようになったか。 <p>○評定の方法 以下の点を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コースワーク (授業中の態度・積極的参加度、ペア、グループワーク等) 総合点の20% 2. 指導案作成 総合点の30% 3. 模擬授業 総合点の25% 4. 期末テスト 総合点の25% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>翌年度実施する教育実習に備える上で、当授業はとても重要な位置付けにある。実習校で担当する生徒に自信を持って教えることができるよう目指そう。模擬授業の機会を多く設けることで教える立場から考えられるようにできるだけ促していく。受講生同士で教え合う練習をするなど、教える機会を是非積極的に作ってみて欲しい。授業内外で能動的に取り組みながら、自分の英語力と授業実践力を培ってもらいたい。また、実習校における授業は原則英語で行うことになるので、基礎的な英語でコミュニケーション能力の向上のため、研鑽に努めること。なお、模擬授業の回数内容などはその時点の受講者の習熟度と人数による。自身が教育実習を行う予定の学校で使用している教科書の内容について把握しておくとうい。</p>		
13. オフィスアワー	基本的に各回の授業の前後15分間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	これまで英語科指導法Iで扱った英語教育に関する基礎知識をまとめて整理しておく。
		事後学習	授業の流れをつかみ、学習の準備を始める。
第2回	第1章 教育実習の目的 第2章 実習前の準備 第3章 学校現場の現状	事前学習	教育実習に臨む上での重要点を英語科指導法Iで学んだことを基に考えてみる。
		事後学習	教育実習において留意すべき事項を押さえ、整理して

			おく。
第3回	第4章 教育実習先で気をつけるべきこと 第5章 授業観察	事前学習	テキスト第5章を読んで授業観察についての概要を理解する。
		事後学習	授業観察の方法について、実際に観察した授業を基に観察のポイントを改めて押さえる。
第4回	第6章 教材研究と指導案の作成	事前学習	テキスト第6章を読んで教材研究についての概要を理解する。
		事後学習	教材研究の方法について、実際に検定教科書を使って実践してみる。
第5回	第7章 学習指導案の作成 第8章 学習指導案例	事前学習	指導案の例を数多く観察することで様々な形式に慣れる。
		事後学習	学習指導要領の理念を踏まえた上で、指導案の作成方法について様々な指導案例を参考にして理解を深める。
第6回	第9章 授業の工夫(1)-Warm-up活動のコツ	事前学習	Warm-up活動について、中・高等学校での学習経験と比較してみる。
		事後学習	第9章を再度読み、Warm-up活動を通じて様々な方法で意欲喚起が可能となることを押さえる。
第7回	第9章 授業の工夫(2)-オーラル・イントロダクションのコツ	事前学習	オーラル・イントロダクションによる教師の英語使用について、中・高等学校での学習経験と比較してみる。
		事後学習	第9章を再度読み、英語を生徒に分かりやすく伝える練習を行う。
第8回	第9章 授業の工夫(3)-教科書本文の理解	事前学習	教科書本文の読解活動について、中・高等学校での学習経験と比較してみる。
		事後学習	第9章を再度読み、教科書本文の読解指導を実際の教科書を使って計画してみる。
第9回	第9章 授業の工夫(4)-4技能統合のコツ	事前学習	これまで4技能の内どの技能に力を入れて学んできたか、中・高等学校での学習経験から振り返ってみる。
		事後学習	第9章を再度読み、4技能の統合案について自分なりに更に発案してみる。
第10回	第9章 授業の工夫(5)-音読	事前学習	音読活動について、中・高等学校での学習経験と比較してみる。
		事後学習	第9章を再度読み、実際の教科書を通じてポイントを押さえながらの音読練習を行う。
第11回	第10章 教具・教材・ICTの活用	事前学習	第10章を読んで、教材・ICTの活用と教室管理の概要を理解する。
		事後学習	教育機器を自分の模擬授業でどのように活かすかについて考えを発展させていく。
第12回	第11章 ティーム・ティーチング 第12章 教室管理 第13章 教室英語	事前学習	ティーム・ティーチングについて中・高等学校での自らの学習経験と比較してみる。
		事後学習	実習先でALTと協働する際の留意点を整理し、実践できるよう準備をしておく。
第13回	模擬授業第1回目(1) Warming-up & Review (授業展開方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第14回	模擬授業第1回目(2) Warming-up & Review (授業内活動実践)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第15回	模擬授業第1回目(3) Warming-up & Review (授業観察眼養成)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第16回	模擬授業第1回目(4) Warming-up & Review (各要素の目標理解)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第17回	模擬授業第2回目(1) 文法事項の導入 (授業観察)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。

第18回	模擬授業第2回目(2) 文法事項の導入 (授業観察眼養成)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第19回	模擬授業第2回目(3) 文法事項の導入 (文法の導入方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第20回	模擬授業第2回目(4) 文法事項の導入 (文法の練習方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第21回	模擬授業第2回目(5) コミュニケーション 活動 (文法の発展練習方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第22回	模擬授業第2回目(6) コミュニケーション 活動 (文法の発展練習方法)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第23回	模擬授業第2回目(7) Reading 音読 (授業観察)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第24回	模擬授業第2回目(8) Reading 音読 (授業観察眼養成)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第25回	模擬授業第2回目(9) Reading 内容理解 (読解指導のPre-reading)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第26回	模擬授業第2回目(10) Reading 内容理解 (読解指導のIn-reading)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第27回	模擬授業第2回目(11) Writing	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第28回	模擬授業第2回目(12) Writing	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞り込んで授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第29回	模擬授業総括	事前学習	これまでの模擬授業を振り返る。
		事後学習	模擬授業を通じて学んだことを、実習準備に活かせるようにしていく。
第30回	復習テスト	事前学習	これまでの学習事項を整理しておく
		事後学習	実習に向けてすべきことを着実にこなせるよう計画立てた準備ができるようにする。